

新型コロナウイルス感染症対策の追加策

6月議会
補正予算

約2億8千万円の緊急予算を提案

原田市長は6月10日、新型コロナウイルス感染症対策を行うための緊急補正予算(約2億8千万円)を6月議会に提案します。市議会は異例の即日審議を行い、追加策の早急な実施を促します。

日本共産党日田市議団は、くらしと平和を守る日田地区連絡会が5月27日に市長に手渡した新型コロナ

大谷市議は「ワクチン接種が完了するまでには、まだまだ日数がかかる。感染防止のために医療・介護施設などでの定期的なPCR検査が必要。その予算は検討されていない」と、市の対策の不十分さを指摘しています。



▲新型コロナウイルス感染症対策を市長に要望(5月27日、くらしと平和を守る日田地区連絡会)

◇介護・障がい者施設、学校、保育園などの職員にワクチンの優先接種を

- 教職員などの優先接種を実施するため集団接種会場に時間外・休日に医師・看護師を派遣した医療機関に協力金を給付。(598万7千円)

◇中小事業者追加支援を

- 売上高が50%以上減少、または30%以上減少した中小企業者などに補助金または支援金を給付。(1億6,190万7千円)
- 感染防止対策強化の備品や消耗品を購入する中小企業等者などに10万円を上限に5分の4を補助。(6,173万6千円)
- 大分県の宿泊施設受入環境整備緊急支援事業を活用し、感染症対策機器の導入など今後のお客の受入環境整備に取り組む宿泊事業者に補助する。(1,887万5千円)

日田市議は「市長は3月議会、PCR検査について早い段階で対応を決めると約束した。いまだに対応が示されないのは問題。市民の感染不安に応えるべきだ」と、強い口調で語っています。少なくとも、市民が自己負担でやっている検査の補助や、抗原検査キットの無料配布に取り組むべきです。

オンラインで政府交渉

天ヶ瀬温泉
復興・復興

経産省に補助制度の改善求める

日本共産党日田市議団、県議団は6月3日、昨年7月豪雨災害の被災者3名も参加して、オンライン政府交渉を行いました。

日田市アオーゼの会議室から日隈知重、大谷敏彰の両市議と天ヶ瀬温泉の旅館経営者が参加。堤栄三、猿渡久子の両県議、田村貴昭、衆院議員、真島省三・前衆院議員らが参加して経産省中小企業庁の担当者と懇談しました。

日隈市議は「なりわい再建補助金を申請できた旅館もあれば、補助対象や工事期限が厳しく定められ、思いどおりの再建ができないと訴える旅館もあるのが実態だ」と強調しました。

旅館の女将の佐藤美香氏は「よう壁設置を求められ、再建の規模を縮小した。借金は背負いたくない」とのべ、別の旅館経営者の関根諭氏は「災害保険金は融資の返済にあてた。保険金だけでは再建できない」と訴えました。

国は「よう壁について県と詰めるように」などと答え、解決策を示しませんでした。

真島氏は「被災者が前向きになれない実態をふまえ、運用を検討するのが国の責任ではないか」と厳しく指摘。田村氏は「コロナ禍で出口が見えなくなる中、せっかくつくった制度が活用されないのは、国の当初の思いともかけ離れてしまうのではないか。ぜひ前向きな検討を」と要請しました。



▶(左上から時計回りに)堤、真島、猿渡、日隈、佐藤、中小企業庁の担当者と(下段)田村氏(3日)